

第3回ワークショップ
(食品事業者のリスクコミュニケーション)

第3回ワークショップ（食品事業者のリスクコミュニケーション）

はじめに

第3回ワークショップのテーマは食品事業者のリスクコミュニケーションです

若手フォーラムで取り扱うリスクコミュニケーションの目的は、社会を取り巻く食品のリスクに関する行政や専門家などの情報をもとに、食品事業者と消費者のコミュニケーションを通して、相互に意思疎通を図かることです。この取組みは消費者の意識を向上させ、食品事業者の取組みへの理解を得る機会を増やすことで、社会の中の合意形成により不要な不安や行動を減らしていくことを可能にします

前半は、NPO法人食の安全と安心を科学する会（SFSS） 理事長の山崎 毅先生の「食とリスクコミュニケーション」をテーマにご講演のあと、みなさんには、コミュニケーションの体験学習（ロールプレイング）を通してコミュニケーションのポイントを理解いただきます

後半は、食品事業者が取り組めるリスクコミュニケーションについてまとめていただきます。事前課題のみなさんがお気づきの消費者が食品安全に関して不安をもつ事例から、食品事業者に期待される行動とコミュニケーションのありかたについて自由に話し合ってください

第3回ワークショップ（食品事業者のリスクコミュニケーション）

全体構成案

【第3回】講演

- 食品事業者が取り組むリスクコミュニケーション（カゴメ）

【第3回】講演、ロールプレイング、ワークショップ

- 講演 食のリスクコミュニケーションについて（仮）
NPO法人食の安全と安心を科学する会（SFSS） 山崎 毅先生
- ロールプレイング
各班毎に「食品添加物」をテーマに消費者、企業担当者の立場でコミュニケーションを体験する
- ワークショップ
 - ・（事前提出課題の共有）消費者が食品安全に関して不安をもつ事例について話し合う
 - ・（まとめ作業）消費者の不安に対してどのような行動が期待されるのか、そして、そのコミュニケーションのありかたを話し合い、まとめる

第3回ワークショップ（食品事業者のリスクコミュニケーション）

ワークショップ

事前課題からワークショップでとりまとめます

1. 事前課題

消費者が食品安全に関して不安をもつ事例として、どのようなものがあるのかを考えて、2つあげる

2. とりまとめ（前半15分）

グループで（事前課題）消費者が食品安全に関して不安をもつ事例を発表する

3. とりまとめ（後半25分）

消費者の食品安全に関する不安を2つに絞って、話し合い、まとめる

- ①消費者が食品安全に関して不安をもつ事例として、どのようなものがあるのかを考えて、2つあげてください
- ②「食品事業者は消費者の食品安全に関する不安に対してどのような行動が期待されるのか、そして、そのコミュニケーションのありかたについて、話し合い、まとめてください

消費者が食品安全に関して不安をもつ事例として、どのようなものがあるのかを考えて、2つあげてください

Q 班

記入者： 山田 一郎

(記入例) 残留農薬

野菜や果実について、残留農薬に関する不安があるために、消費者の中には有機野菜へのニーズが高い

食品事業者のリスクコミュニケーション

ワークショップ・チーム別
取りまとめフォーマット



「食品事業者は消費者の食品安全に関する不安に対してどのような行動が期待されるのか、そして、そのコミュニケーションのありかたについて、話し合い、まとめてください

Q 班 記録者 佐藤 次郎 発表者 鈴木 三郎

消費者の食品安全に関する不安	期待される行動	コミュニケーションのありかた
輸入食品の回収（残留農薬の違反） 野菜の栽培管理は製造者に任せている	<ul style="list-style-type: none">残留農薬基準（ポジティブリスト）に適合するように栽培管理を製造者と合意する定期的なモニタリング検査を行う	<ul style="list-style-type: none">農薬は適正な取り扱いにより安全に、農作物を収穫することができる残留農薬基準は安全性を重視し、設定されている